

# グローバル人材の育成

GLOBAL HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT

平成25年7月16日  
教育委員会

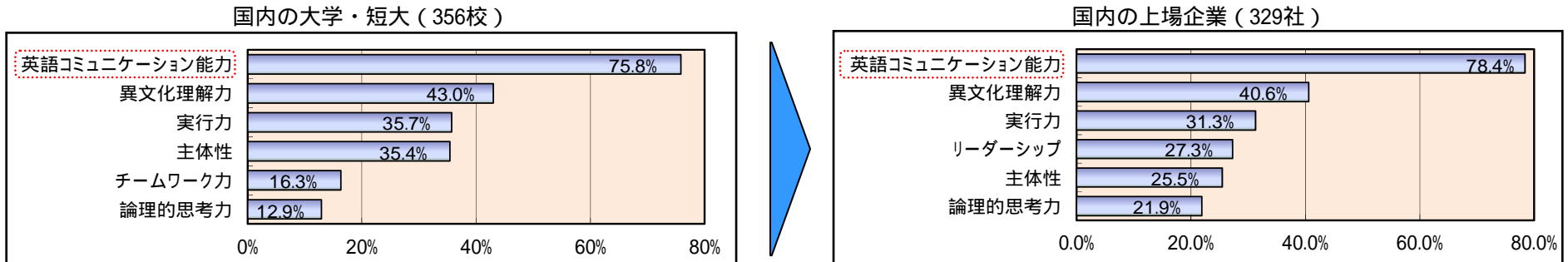
## 目指すべき方向

国内外のグローバル化の進展に対応すべく、社会の求める人材像を適切に捉えた人材育成が系統的に行われ、産業活力の礎としての優秀な人材を、広島県から多数輩出する。

# 育成すべき人材像，要求水準，人材需要

近年の社会経済環境の急速なグローバル化に対して，育つ人材は「内向き」傾向（ギャップ）  
 大学や企業のニーズを踏まえると，グローバル社会で実際に使える英語コミュニケーション能力の育成は急務

➤ グローバル人材に必要な能力 ～大学・企業アンケート調査結果～



出典) 国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEIC大学就職課調査」「上場企業における英語活用実態調査」(H23.1)

➤ 育成すべき人材像 ～英語コミュニケーション能力を中核として，主体性やチャレンジ精神，異文化理解などの素養も兼ね備えた人材～

【要素1】語学力・コミュニケーション能力

【要素2】主体性・積極性，チャレンジ精神  
 協調性・柔軟性，責任感・使命感

【要素3】異文化に対する理解と  
 日本人としてのアイデンティティ

## 企業が求めるグローバル人材の需要予測

要求水準

多数者間折衝・交渉レベル  
 二者間折衝・交渉レベル  
 業務上の文書・会話レベル  
 日常生活会話レベル  
 海外旅行会話レベル

<H24>約168万人 <H29>約411万人 **5年で2.4倍**

(全従業員数:約4,127万人)

【上記のうち若い世代に求められる数】

日本の18歳人口:今後10年間は約110万人程度で推移  
 うち約10%(約11万人程度)は，20歳代前半までに留学経験等を有する レベルの潜在的候補者になることを目指す  
レベルの人材も，相当程度の厚みのある人材層の形成が必要

(参考) 県内の需要見込  
 (単純割戻し)

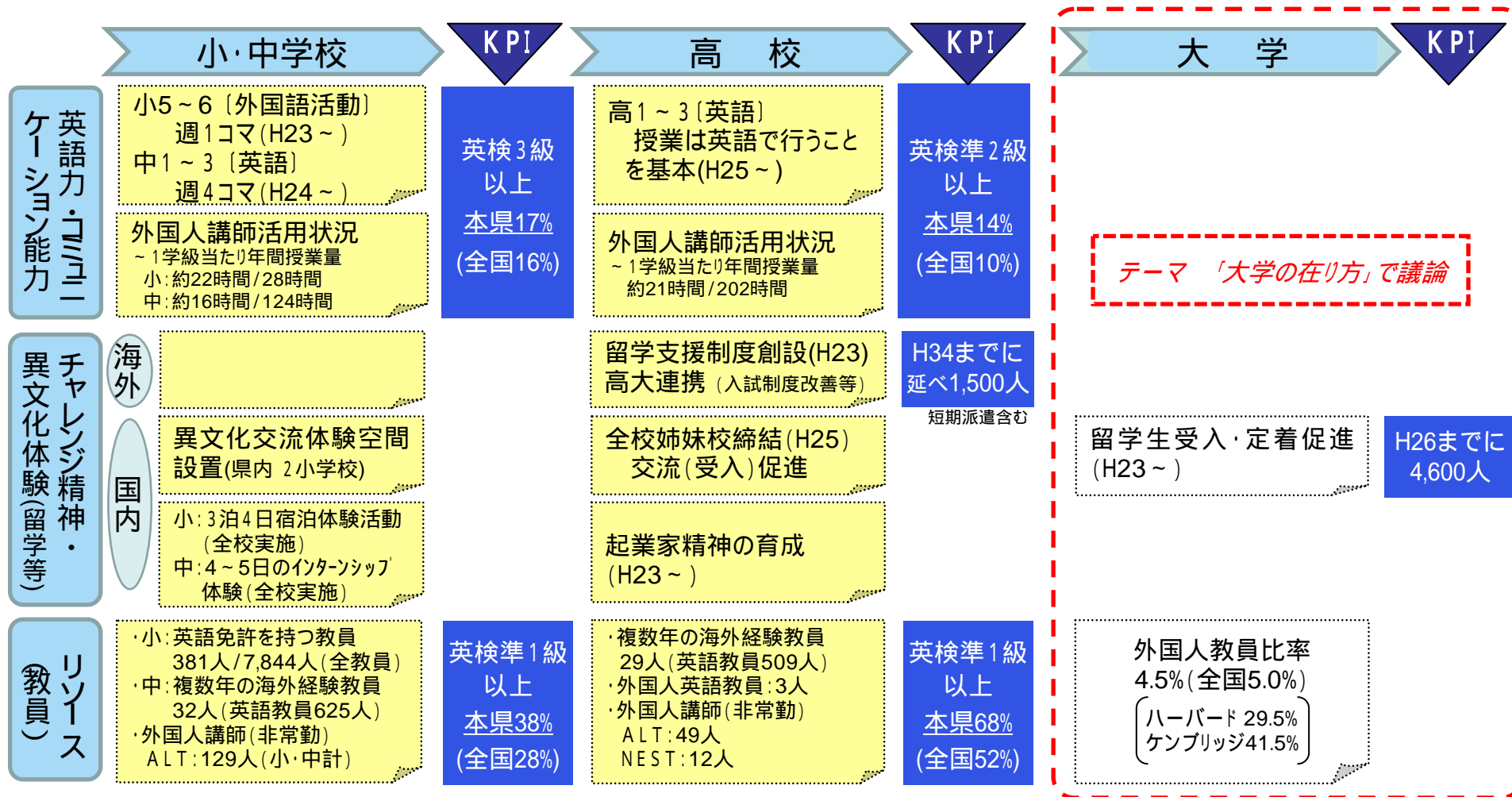
グローバル人材の需要予測  
 <H24> 3.6万人 <H29> **8.6万人**  
 (全従業員数:約87万人)

【上記のうち若い世代に求められる数】  
 県内の18歳人口:約2.7万人程度で推移  
 レベル 約2,700人/年

出典) 国家戦略室「グローバル人材育成戦略」(グローバル人材育成推進会議 審議まとめ) (H24.6)

# 本県の現状

初等中等教育における英語力・コミュニケーション能力は全国より高いレベルにあるが、国際水準には程遠く、また、急速に進展するグローバル化の中で、要求水準の上昇や人材需要の増加は確実であり、社会が求める「質・量」ともに満たす人材の育成に向けて、国の議論も注視しつつ、本県としての独創的な対策の検討が必要



## 他の都道府県との比較

英語力・コミュニケーション能力					海外留学										
生徒		教員		生徒											
中学校	高校	中学校	高校	高校											
KPI		英検3級以上		英検準2級以上		英検準1級以上		英検準1級以上		H34までに延べ1,500人(短期派遣含む)					
		(H24生徒割合)		(H24生徒割合)		(H24教員割合)		(H24教員割合)		(H23留学者数計)		(H23長期留学)		(H23短期派遣)	
1位	A	26%	D	20%	G	44%	H	82%	H	9.7人(190)	L	2.2人(95)	H	9.6人(189)	
2位	B	25%	E	19%	A	41%	G	81%	J	7.5人(990)	A	1.0人(117)	K	7.3人(125)	
3位	C	25%	F	17%	広島県	38%	I	76%	K	7.5人(128)	M	0.7人(85)	J	7.1人(929)	
留学者数:生徒千人当たり/( )内は実数 長期:3月以上/短期:2週~3月															
広島県	17位	17%	9位	14%	3位	38%	6位	68%	26位	1.7人(83)	14位	0.4人(20)	28位	1.3人(63)	
全国平均	16%		10%		28%		52%		2.4人		0.4人		2.0人		
トップとの差	9ポイント		6ポイント		6ポイント		14ポイント		7.3人		1.8人		7.6人		

## 諸外国との比較

学習指導要領記載の語彙数比較(小中高計)	中国	6,150語	韓国	8,200語	台湾	5,180語	日本	3,080語
教科書本文の分量(日本との比較)	中国	4~6倍	韓国	3~5倍	台湾	3~5倍	日本	
GTEC for STUDENTSのスコア比較(高1)	中国	453.6点	韓国	448.6点	台湾		日本	408.0点

## 【論点】国際水準を睨んだ教育プログラムの戦略的な展開

### 国際社会の第一線で活躍できるグローバルリーダーを育成する教育の実施

- ✓ 英語スキルを始め、論理的思考力や問題解決力等の育成も含めた世界水準の教育プログラムの整備  
例；スーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)、国際バカロレア認定校、留学義務化コース など

### 社会が求めるグローバル人材の量的拡大に向けた教育プログラムのブラッシュアップ

- ✓ 使える英語力・コミュニケーション能力の習得を目指した実践的な英語教育の強化  
例；学校のレベルに応じた到達目標の設定、外国人講師(ALT)等のネイティブスピーカーの大幅増員・戦略的配置 など
- ✓ チャレンジ精神の育成や異文化体験(留学等)の戦略的な展開  
例；海外経験者の増加に向けた留学支援の環境整備(留学奨学金制度の導入等)  
海外留学生の受入促進・交流拡大、ICTを活用した海外の学校との交流学习・協働学習  
主体性・積極性・チャレンジ精神等を発揮する活動等の支援 など

### 教員のグローバル化への対応

- ✓ 外国人や複数年の海外経験を有する者の特別選考の実施
- ✓ 現職教員の海外経験の拡大に向けた海外の学校との教員相互派遣の実施
- ✓ ネイティブ講師による英語漬け研修など、イマージョンを実践する研修環境の整備

## 論点 国際社会の第一線で活躍できるグローバルリーダーを育成する教育の実施

### 国内トップクラス・世界水準の事例

区分	国際バカロレア全校導入		生徒の多様性	教員の多様性	全寮制	特記事項	進学実績
	MYP	DP					
国際バカロレア	東京学芸大学附属国際中等教育学校	—	〔1学年:約120人 帰国生:約4割〕	—		イマージョン授業 (中学から)	海外大学:5人 (国公立大学:24人)
	立命館宇治中・高等学校	—	〔1学年:約350人 (うちDPコース約50人) 帰国生:約4割〕	(ネイティブ)教員:約2割	(寄宿舎あり)	TOEFL受検義務化 留学コース設置	海外大学:56人 (国公立大学:3人)
	加藤学園暁秀中・高等学校	(コース設置)	(コース設置)	〔1学年:約210人 (うちDPコース約20人) 帰国生:約1割〕	(ネイティブ)教員:約1割		短期留学の義務化 (5年次)
全寮	海陽中等教育学校	—	〔1学年:約120人〕	—	(企業職員派遣)	チューター制・少人数 全人教育・しつけ教育	海外大学:15人 (国公立大学:34人)
ナショナルインターナショナル	ASIJ		(帰国生・外国人子弟)			40カ国以上が在籍	多くはアメリカの大学 (進学率ほぼ100%)
	ISAK		(海外留学生:約半数)	(世界中から採用)		少人数・秋入学 デザイン教育 UWC加盟予定	(H26.9開校予定)
世界	海外全寮制学校 (イートン校)		〔1学年:約220人〕			全人教育 少人数制	ケンブリッジ大・オックス フォード大 計78人
県内	広島AICJ 中・高等学校	—	〔1学年:約140人 (うちDPコース数人)〕	(ネイティブ)教員:約2割	(Englishハウスあり)	ニュージーランド校 への編入可能 イマージョン授業(中学)	海外大学:3人 (国公立大学:64人)

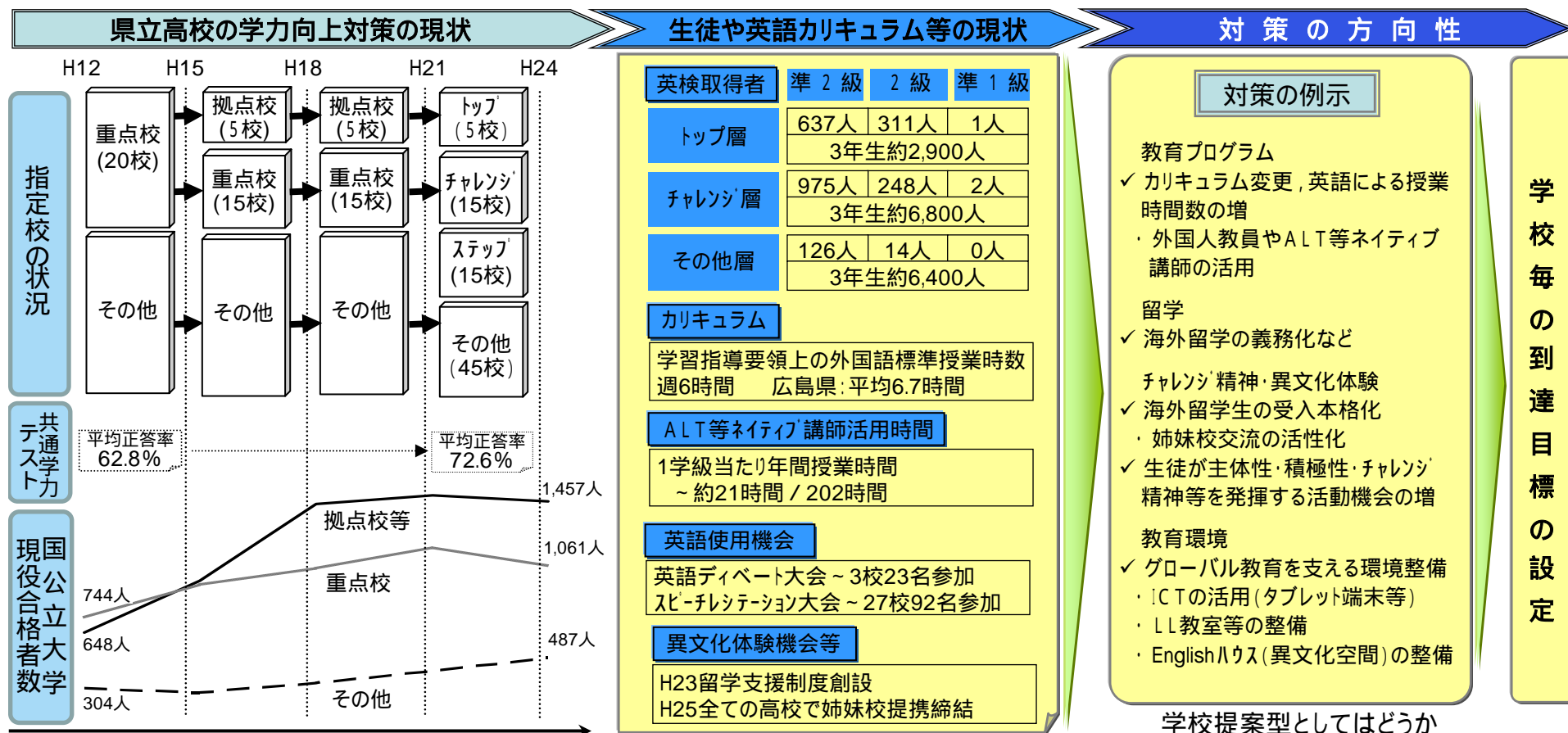
MYP ~ Middle Years Program(11歳~16歳), DP ~ Diploma Program(16歳~19歳)

ASIJ ~ American School in Japan ~ 日本初&最大規模のインターナショナルスクール(帰国生, 大使館関係者, アメリカ企業駐在員子弟など40カ国以上1,400人以上在籍)

ISAK ~ International School of Asia, Karuizawa ~ 少人数制・全寮制のインターナショナルスクール(ミッション:新たなフロンティアを創り出し変革を起こせるリーダーの育成)

# 論点 社会が求めるグローバル人材の量的拡大に向けた教育プログラムのブラッシュアップ

- 本県では、H12年度から学力向上指定校による対策を強化し、拠点校に引っ張られる形で県全体の学力が飛躍的に向上したという成果あり
- 今後は、現行の学力向上対策による「確かな学力の育成」に加えて、限られたリソースの中で、グローバル社会で通用する実践的な英語教育の強化や国際的素養の修得に向けた対策が必要となる
- 対策検討に当たっては、生徒の英語コミュニケーション能力や現行カリキュラム等の現状を踏まえ、各学校の状況に応じた実行性のあるものにすべき
- 実行性を担保するには、一層負荷のかかる学校現場の意欲や主体性が必須となることから、各学校が到達目標を定め、校長のリーダーシップの下、独創的な対策を講じる方策(学校提案型)が有効なのではないか





# 論点 教員のグローバル化への対応

## ▶ 外国人教員や複数年の海外経験のある教員等の現状 公立高校

区分	外国人教員の人数		複数年の海外経験教員の割合		外国人講師(ALT)の人数	
1位	A	4人	C	13% (55人)	F	2.6人 (263人)
2位	広島県	3人	D	12% (161人)	G	2.2人 (30人)
3位	B	2人	E	12% (37人)	H	1.9人 (51人)
広島県	2位 3人		22位 6% (29人)		25位 1.0人 (49人)	
全国平均	0.3人		6% (32人)		1.1人 (51人)	
トップとの差	1人		7ポイント		1.6人	

全国計13人, 配置5府県

( )内は実数

生徒千人当たり/( )内は実数

### 採用時のTOEFLスコア利用状況

利用あり	利用なし
78%	22%

#### 主な利用状況

- ・筆記試験や実技試験の免除
- ・出願資格の一部として義務付け
- 広島県
- ・自己申告してもらい参考とする

CIEE調べ(有効回答:37都道府県)

## ▶ 現職教員の海外派遣等の現状 公立高校

(広島県) 詳細は参考資料(P23「教員研修の状況」)のとおり

区分	派遣期間	派遣先	H24実績	過去実績累計
青年海外協力隊	2年	外国教育施設	0人	7人
英語担当教員語学研修	3週間	ハワイ大学	2人	9人
姉妹校教員海外派遣	1ヶ月	海外姉妹校	6人	6人
外国教育施設教員派遣	2年	外国教育委員会	(H20中止)	12人

### (他の都道府県の事例)

大阪府の取組	埼玉県の取組
海外の先進的な学校への教職員派遣 ・2泊3日～H24:190人(アジア8都市) ・3泊4日～H24:40人(アジア4都市) H23～24実施	クイーンズランド州との教員相互派遣 ・派遣:約3週間～H24:2人(累計45人) ・受入:約2週間～H24:2人(累計46人) S61～継続実施

## ▶ 教員研修の現状 公立高校

### H24 集中研修(3～5日程度) 実施状況

実施	未実施
20道府県	27都府県(広島県含む)
実施状況(受講者割合)	
1位:53%(115人)	2位:36%(70人) 3位:28%(51人)

### (参考) 広島県英語教員ブラッシュアップ研修

- 【実施時期】 H15～H19(5年間で全英語教員が受講)
- 【実施期間】 10日間/年
- 【受講者】 339人(政令市・中核市を除く)
- 【特徴】 研修中は原則、英語のみ使用  
指導方法に関する講義・演習・ディスカッション等  
最終日にTOEFL試験実施(目標550点 英検準1級相当)

## 参考資料

- グローバル人材の定義 . . . . . P.10
- 社会経済環境の変化(経済状況) . . . . . P.11
- 社会経済環境の変化(若者の意識) . . . . . P.12
- 日本企業の海外進出状況 . . . . . P.13
- 県内企業の海外進出状況 . . . . . P.14
- 日本企業の人材需要の現状 . . . . . P.15
- 日本の英語コミュニケーション能力の現状 . . . . . P.16
- 系統的な人材育成に向けた改革の方向性 . . . . . P.17
- 国の議論の動向(教育再生実行会議「第三次提言」抜粋) . . . . . P.18
- 国内外の特徴的な事例 . . . . . P.19
- 県内の児童生徒の進学状況 . . . . . P.20
- グローバル人材に求められる能力(H23教育委員会整理) . . . . . P.21
- 高校生の海外留学の状況 . . . . . P.22
- 教員研修の状況 . . . . . P.23
- 県立高校の学力向上対策の状況 . . . . . P.24

## グローバル人材の定義

H24年6月「グローバル人材育成戦略」（グローバル人材育成推進会議 審議まとめ）

「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が含まれるものと考えられる。

要素：語学力・コミュニケーション能力

要素：主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感

要素：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

H23年6月「グローバル人材の育成に向けた提言」（日本経済団体連合会）

産業界が、グローバル人材に求める素質，能力としては，社会人としての基礎的な能力に加え，日々，変化するグローバル・ビジネスの現場で，様々な障害を乗り越え，臨機応変に対応する必要性から「既成概念に捉われず，チャレンジ精神を持ち続ける」姿勢，さらに，多様な文化・社会的背景を持つ従業員や同僚，顧客，取引先等と意思の疎通が図れる「外国語によるコミュニケーション能力」や，「海外との文化，価値観の差に興味・関心を持ち柔軟に対応する」ことが指摘されている。

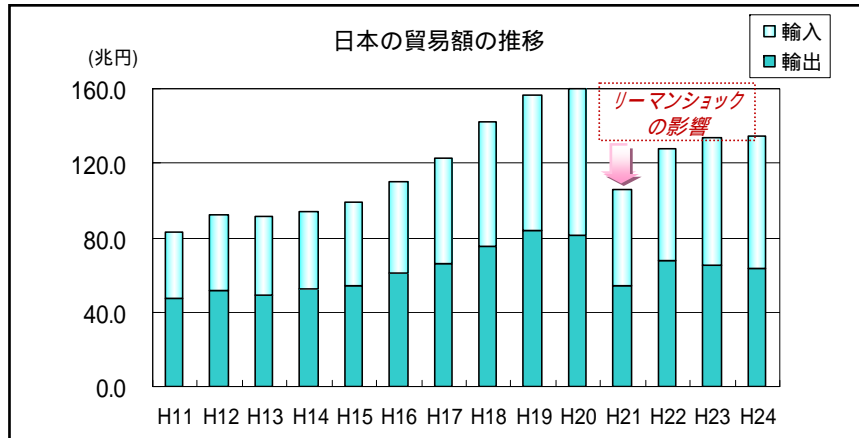
H23年4月「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」（産学連携によるグローバル人材育成推進会議）

グローバル人材とは，世界的な競争と共生が進む現代社会において，日本人としてのアイデンティティを持ちながら，広い視野に立って培われる教養と専門性，異なる言語，文化，価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性，新しい価値を創造する能力，次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間。

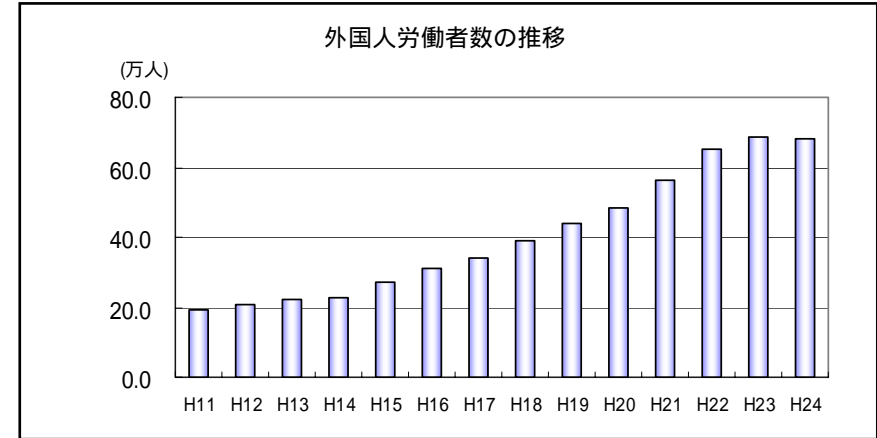
# 社会経済環境の変化(経済状況)

リーマンショックや東日本大震災などの特殊要因を除くと、貿易額及び訪日外国人客数は約2倍、外国人労働者数は約3倍に増加するなど、近年、国内の経済状況は大きくグローバル化している。

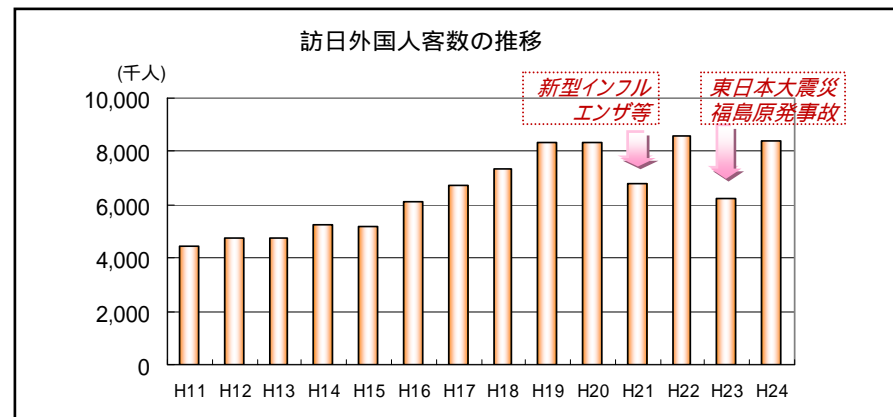
## 〔国内の経済状況の変化〕



出典) 財務省「貿易統計」



出典) 厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況」

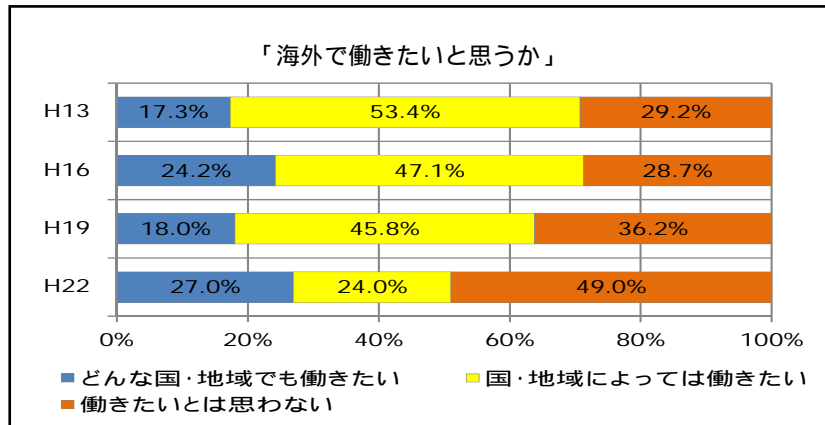


出典) 日本政府観光局(JNTO)「国際観光白書」

## 社会経済環境の変化(若者の意識)

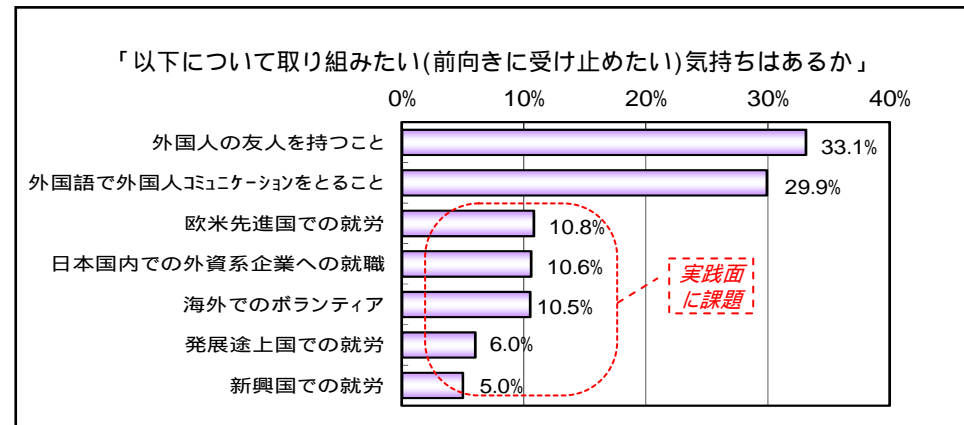
新入社員のグローバル意識は二極化傾向にあり、また、20～30代の海外に対する受容性では海外での就労には消極的であるなど、国際社会で通用する実践的なスキルの育成や意欲の涵養が必要となっている。

### 〔新入社員のグローバル意識〕



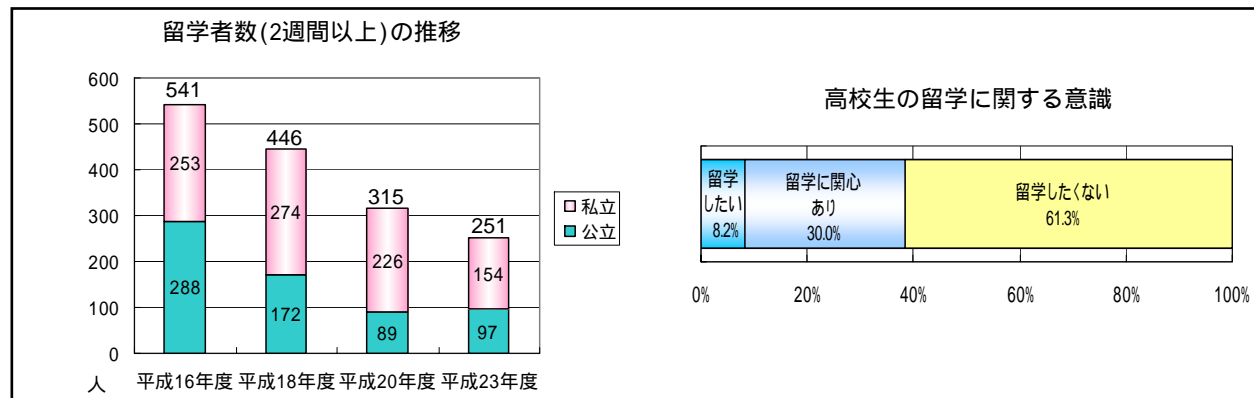
出典) 産業能率大学「新入社員グローバル意識調査」(H22)

### 〔20～30代の海外に対する受容性〕



出典) 野村総研「若者の生活意識に関するアンケート調査」

### 〔県内高校生の留学状況・留学意識〕

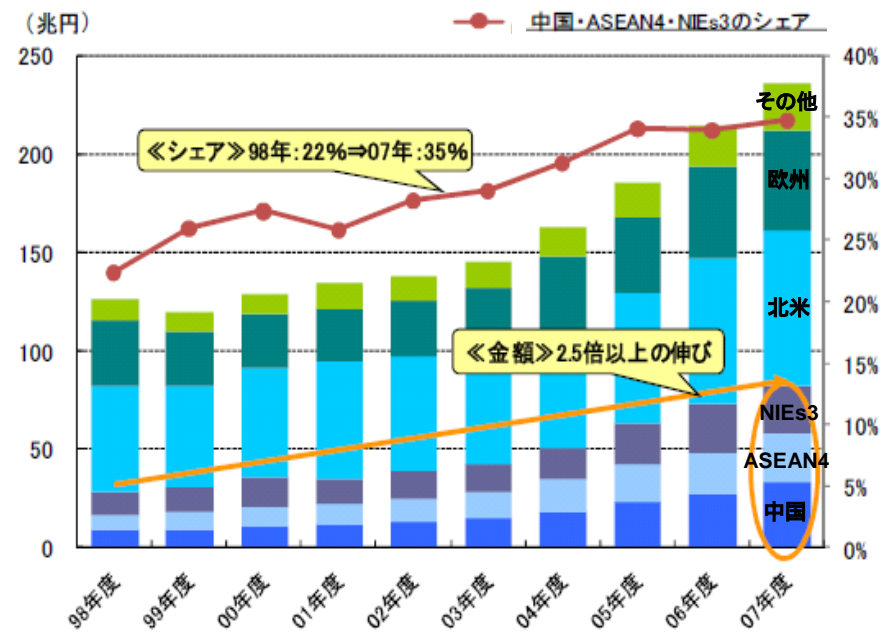


出典) 県教委「高校生の海外留学調査」(H24)

# 日本企業の海外進出状況

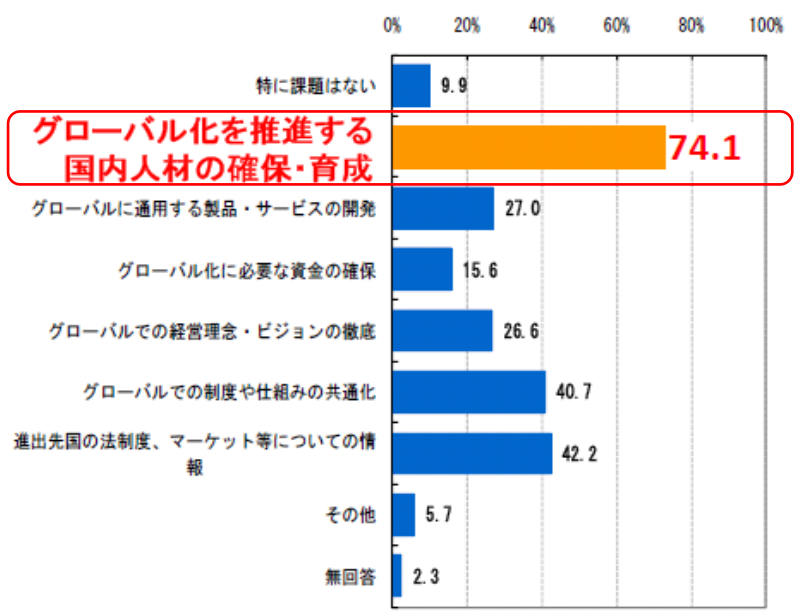
日本企業の海外売上高は、近年急速に拡大し、200兆円を超えている。中でも東アジアでの売上高は、98年からの10年間で2.5倍以上、全海外売上高に占める割合も35%に上昇。  
 一方で、海外拠点を設置・運営するに当たり、4分の3近い企業が「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」を課題として挙げている。

日本企業の海外売上高，東アジアマーケットシェアの推移



出典) 経済産業省「海外事業活動基本調査」

海外拠点の設置・運営にあたっての課題



出典) 経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(2010年3月)  
 アンケート回答企業: 259社(上場企業201社, 非上場企業58社)

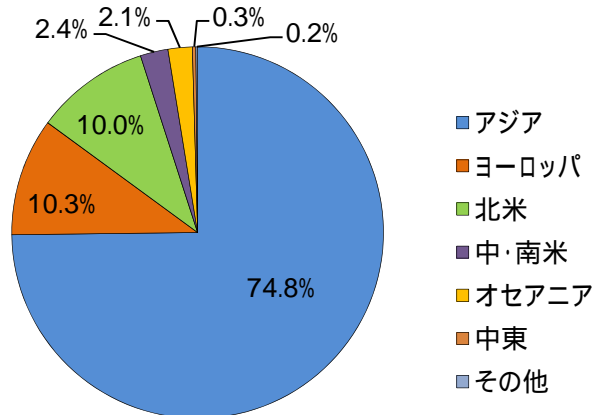
## 県内企業の海外進出状況

県内に本社のある企業（地場企業）又は事業所のある企業（県外本社企業）ともに，アジアを中心に多くの海外事業所を有しており，85年からの急激な円高により86年～05年にかけて海外進出が一挙に加速。06年から少し鈍化したものの，現在でも新設が続いている。（ H24調査実施422社のうち，公表を承諾した197社の状況）

〔業種別海外進出状況〕

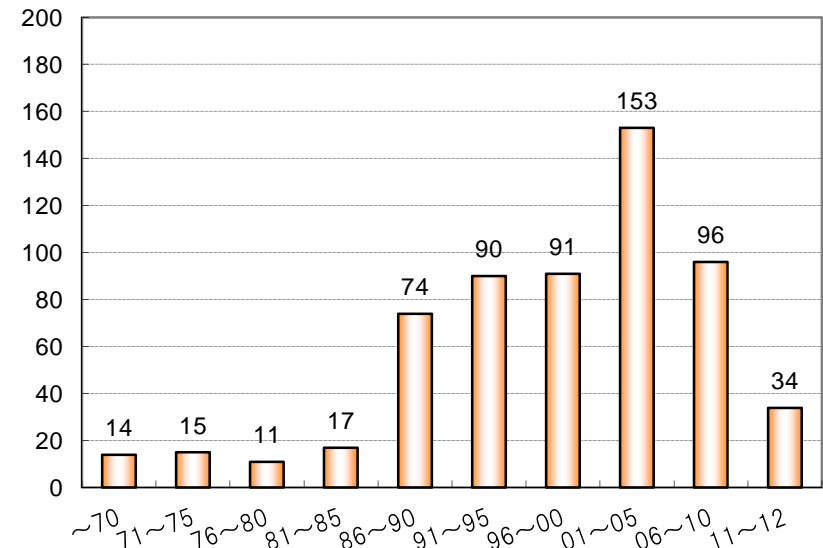
業 種	地 場 企 業		県外本社企業		合 計	
	企業数	事業所数	企業数	事業所数	企業数	事業所数
製 造	133	382	11	154	144	536
建設・建設サービス	8	21			8	21
運 輸 ・ 通 信	2	10	4	38	6	48
卸売・小売，飲食店	17	32	1	1	18	33
金 融 ・ 保 険	1	2			1	2
サ ー ビ ス	16	19	1	1	17	20
そ の 他	3	3			3	3
合 計	180	469	17	194	197	663

〔地域別海外進出状況〕



〔年次別海外進出状況〕

(事業所)

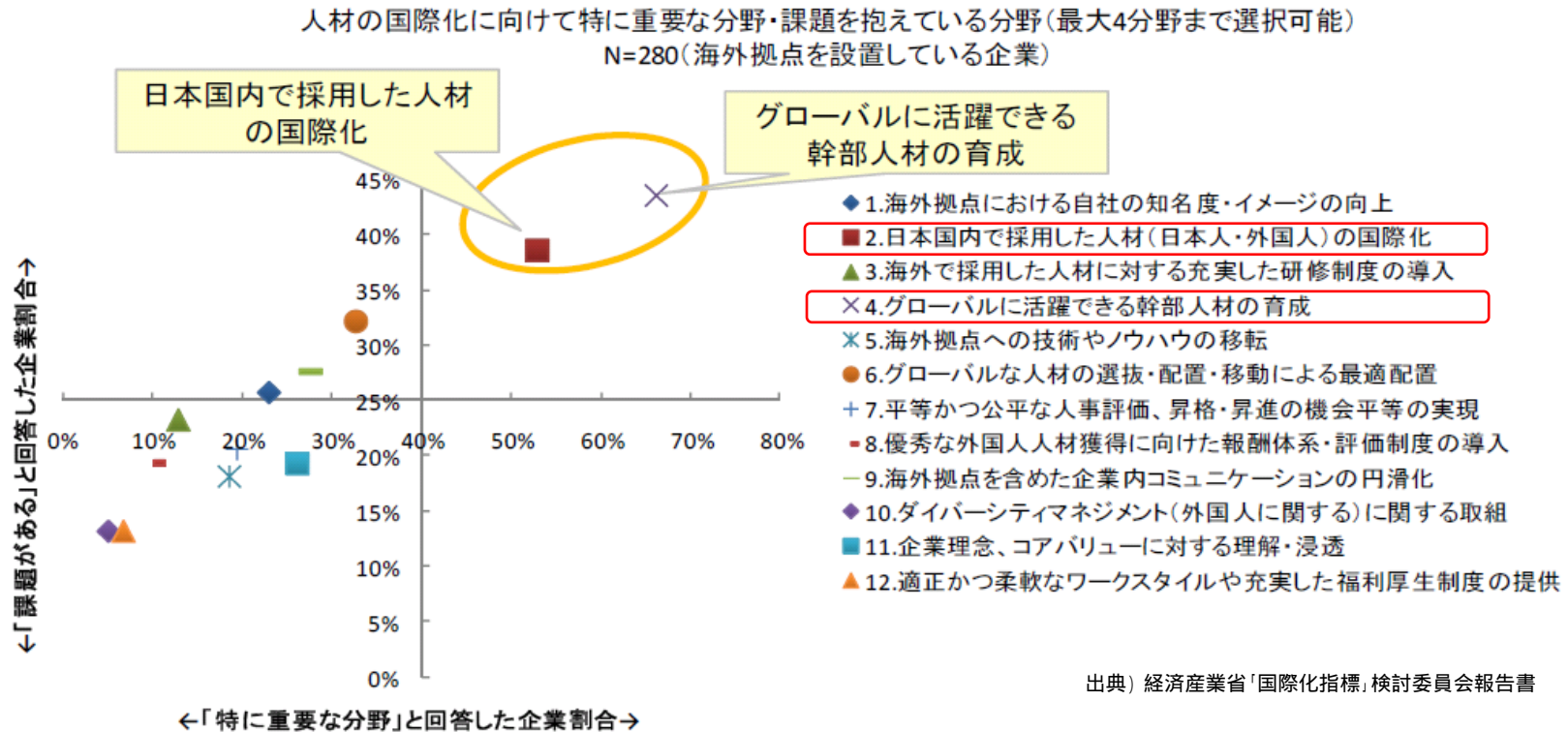


出典) (財)ひろしま産業振興機構「海外進出企業ダイレクトリー(2012)」

# 日本企業の人材需要の現状

海外拠点を設置している企業を対象としたアンケート調査では，人材の国際化に向けて，「グローバルに活躍できる幹部人材の育成」と「日本国内で採用した人材の国際化」が重要であり，かつ課題であると認識している企業の比率が高い。

## 〔人材の国際化に向けた重要分野・課題分野〕





# 日本の英語コミュニケーション能力の現状

TOEFLスコアの国別ランキング(2010年)では、日本は163か国中135位、アジアの中では30か国中27位。また、スイスの研究教育機関IMDによる世界競争力ランキング(2011年)では、日本は59か国中26位。我が国が弱い指標として外国語のスキル(58位)が挙げられている。

## (TOEFL(iBT)の国別ランキング(2010年))

<全体順位>(163か国中)

順位	国名	TOEFLスコア
1位	オランダ	100
2位	デンマーク	99
3位	シンガポール オーストリア	98
:		
80位	韓国	81
:		
105位	中国	77
:		
135位	カメルーン	70
135位	トーゴ	70
135位	クウェート	70
135位	日本	70
139位	ギニア	69
139位	シエラレオネ	69
:		
163位	モーリタニア	58

<アジア内順位>(30か国中)

順位	国名	TOEFLスコア
1位	シンガポール	98
2位	インド	92
3位	マレーシア パキスタン フィリピン	88
:		
9位	韓国	81
:		
16位	中国	77
:		
24位	アフガニスタン	73
24位	モンゴル	73
24位	ベトナム	73
27位	日本	70
28位	ラオス人民民主共和国	67
29位	タジキスタン	66
30位	カンボジア	63

TOEFL(iBT)は120点満点

## (IMD世界競争力ランキング(2011年))

<全体順位>(53か国中)

1	香港、米国
3	シンガポール
4	スウェーデン
5	スイス
6	台湾
7	カナダ
8, 9	(略)
10	ドイツ
11~18	(略)
19	中国
20	英国
21	(略)
22	韓国
23~25	(略)
26	日本

<我が国が強い指標>

項目	順位
平均寿命	1位
環境技術	2位
研究開発投資	3位, 4位

<我が国が弱い指標>

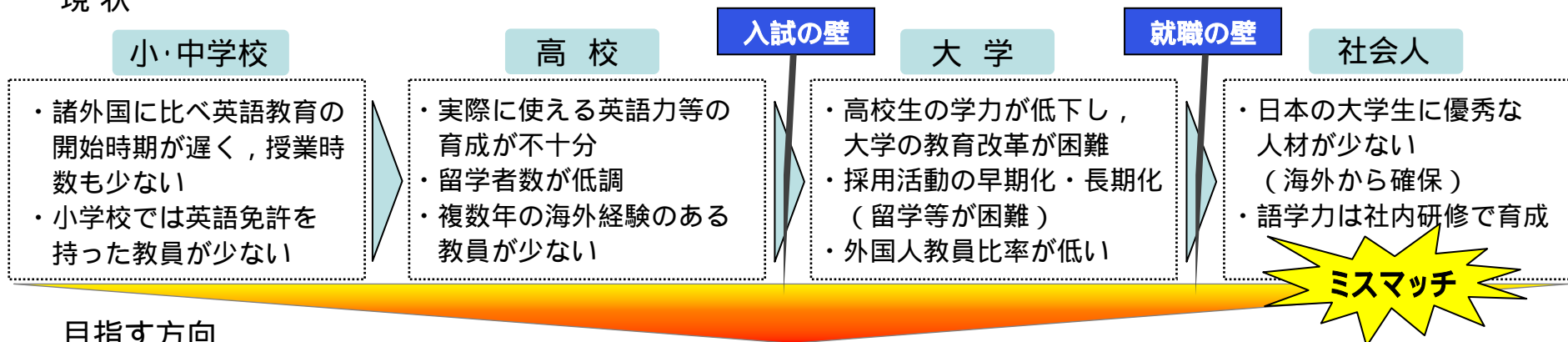
項目	順位
携帯電話料金	59位
外国語のスキル	58位
依存人口比率	55位

# 系統的な人材育成に向けた改革の方向性

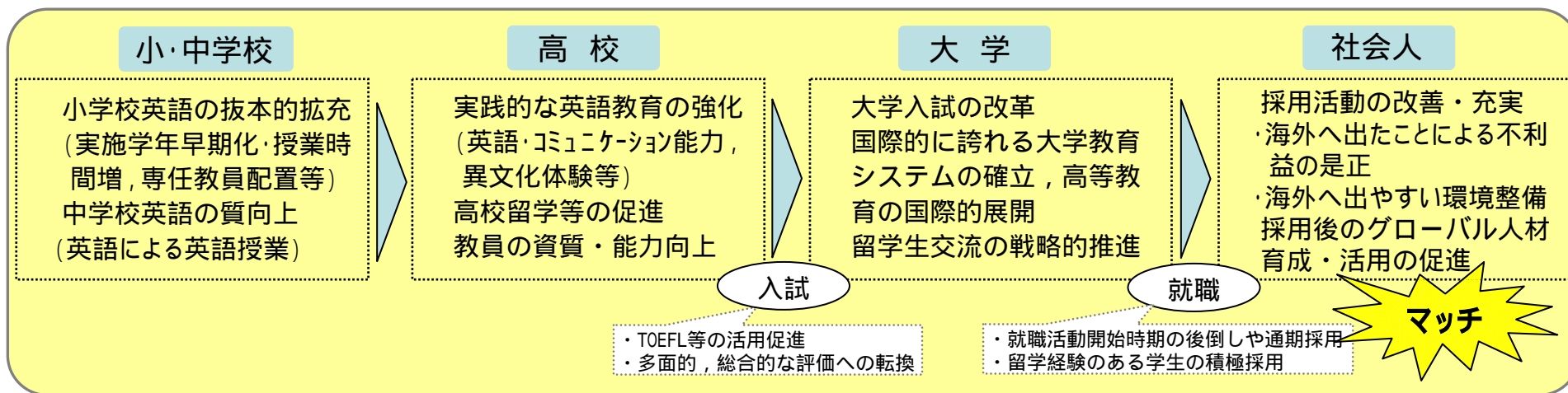
現在、国を挙げて、入試や就職の壁を始めとする「悪い流れ」からの脱却を目指した議論が進行中である。

- ・ 初等中等教育段階から、大学や企業のニーズにマッチする系統的な人材育成が必要
- ・ 高等教育段階では、マクロの視点から、国家戦略として「大学の機能強化」に向けた抜本的改革を検討

## 現状



## 目指す方向



## 国の議論の動向(教育再生実行会議「第三次提言」抜粋)

平成25年5月28日付けで安倍総理に提出された教育再生実行会議の「第三次提言」(これからの大学教育等の在り方について)の主な内容は次のとおり。

	小・中学校	高 校	大 学
英語力・ コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小3又は小4：英語学習(実施学年引下げ)</li> <li>・小5～6：英語教科化(指導時間増,専任教員配置)</li> <li>・中1～3：英語による英語授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)の指定 英語使用機会拡大,問題解決力等の国際的素養の育成支援(～H30;100校)</li> <li>・国際バカロレア認定校の大幅増 日本語DPの開発・導入(H27目途) (H25;16校 H30;200校)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後10年間で世界大学ランキングトップ100に10校以上(H24;2校)</li> <li>・スーパーグローバル大学の重点支援 外国人教員の積極採用,海外大学との連携,英語の授業のみで卒業可能な学位課程の拡充等</li> <li>・英語による授業比率の増加</li> </ul>
チャレンジ精神・ 異文化体験(留学等)	海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期留学への積極的な支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人留学生:12万人に倍増</li> <li>・大学入試や卒業認定におけるTOEFL等の活用</li> </ul>
	国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外交流事業への積極的な支援</li> <li>・イングリッシュキャンプ等の英語に触れる機会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人留学生:30万人に増加</li> <li>・秋入学やクォーター制など国際化に対応した学事暦の柔軟化</li> </ul>
リソース (教員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外派遣を含めた教員研修の充実・強化</li> <li>・採用時の外部検定試験(TOEFL等)の活用促進</li> <li>・教員養成段階でのネイティブスピーカーによる英語科目の履修推進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な外国人教員の増員</li> <li>・日本人教員の英語の教育力向上</li> </ul>
制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や地方公共団体のグローバル化に対応した教育環境整備に対し,必要な規制改革や支援措置(「国家戦略特区」の活用等)</li> </ul>		

## 国内外の特徴的な事例

*keyword*・・・**全員留学**

郁文館グローバル高校（東京・私立）

留学用の特別カリキュラム  
 1年～留学準備(目標:英検2級)  
 2年～海外留学(全員1年間NZへ)  
 3年～目標:TOEFL500点・英検準1級  
 英語授業は週12コマ  
 全クラス副担任にネイティブ配置

*keyword*・・・**国際バカロレア**

東京学芸大附属国際中等教育学校（東京・国立）

中1～高1に国際バカロレアのMYPを導入  
 イメージン授業(英語で他教科の授業)の実施  
 探究心,複眼的思考,問題解決力等の育成重視  
 学年の約2割が海外大学への進学を視野  
 高2からDP取得のため海外留学する生徒もいる

*keyword*・・・**英語で授業**

横浜国際高校（神奈川・公立）

英語授業はオールイングリッシュ  
 23人のネイティブ教員在籍  
 6か国語の第二外国語の必修化  
 日本語禁止の箱根英語合宿  
 約半数の生徒が姉妹校訪問

*keyword*・・・**ディベート**

高山西高校（岐阜・私立）

1・2年次に3か月のディベート授業実施  
 H23に英語ディベート世界大会出場  
 米国姉妹校への語学研修,英語スピーチ  
 コンテスト,英検・TOEIC対策等

*keyword*・・・**ネイティブ教員**

慶応義塾湘南藤沢中・高等部（神奈川・私立）

英語教員の半数がネイティブ(クラス担任も兼ねる)  
 週2コマ以上でネイティブの授業実施  
 授業はプレゼン・スピーチ・ディベート等の課題中心  
 6か国10校との短期交換留学プログラムを通年実施

*keyword*・・・**早期の英語教育**

韓国 (South Korea)

幼稚園からの英語教育が標準的  
 小学校3年から英語必修(週2～3コマ)  
 小3～高3までの一貫した英語教育  
 カリキュラムを整備  
 小学生から海外留学(年間1万人超)  
 英語村の活用(海外疑似体験)

他の都道府県（公立）

*keyword*・・・**英語で授業**

〔宮城県〕 H25年度までに県内全ての高校で「英語による授業」の完全実施を目指す(学校毎の活動目標設定,研修・模擬授業,公開授業等)

*keyword*・・・**ディベート授業**

〔茨城県〕 H25年度までに県内全ての高校で「ディベートを取り入れた授業」の実施を目指す(ディベート指導法研修,同実践研修,同県大会等)

*keyword*・・・**教員研修**

〔富山県〕 5年間で全ての中・高英語教員が参加する3日間の集中研修実施(英語で授業を行うための指導法,Can-Doリスト作成等)

*keyword*・・・**姉妹提携交流**

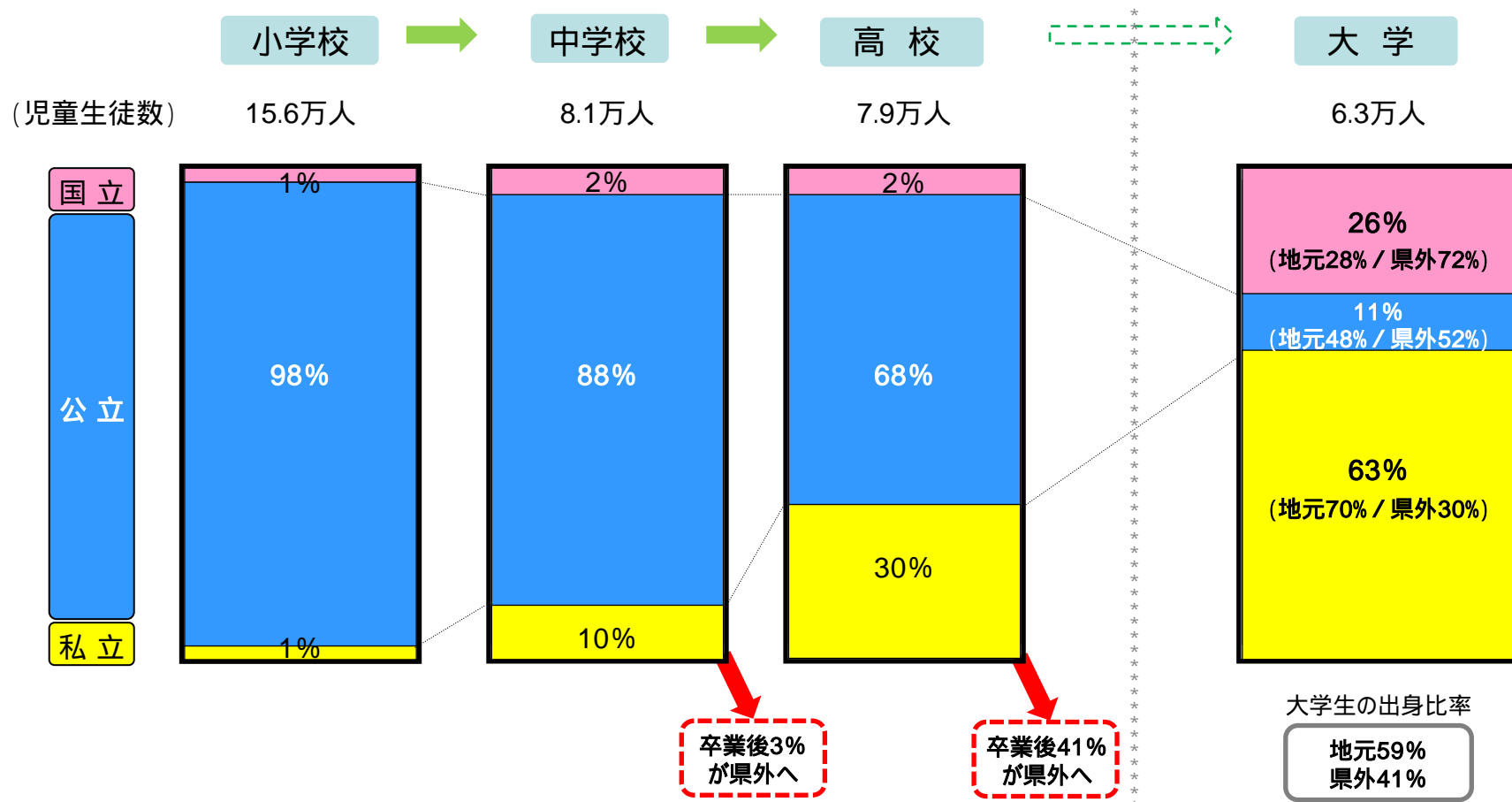
〔埼玉県〕 クイーンズランド州との交流～教員相互派遣(各2名),高校生の派遣・受入(各100名程度)・海外大学等への短期派遣(100名程度)

*keyword*・・・**留学団体との提携**

〔沖縄県〕 YFU(H25からはEIL)の特別枠を活用し,毎年70名程度を1年間の海外留学へ 留学費用は県が全額助成

## 県内の児童生徒の進学状況

高校までは、ほとんどの児童生徒が地元の学校へ進学し、高校段階での公私比率は約7：3であるが、高校卒業後からの進路は流動的（県内 県外，国 公 私）である。



## グローバル人材に求められる能力 (H23教育委員会整理)

教育委員会では、グローバル人材に求められる能力を次のとおり体系的に整理し、県内の各学校において、教育活動全体を通じた取組を進めている。

### グローバル人材に求められる能力

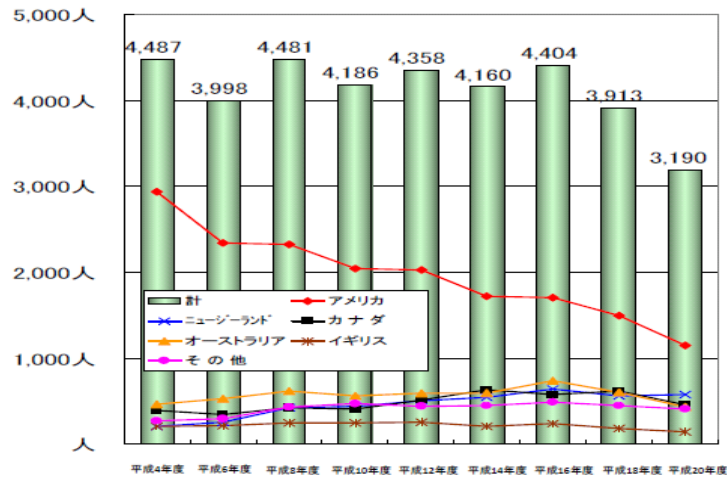
校 種		小学校	中学校	高等学校
領域	グローバル化に対応するために必要な資質・能力	グローバル人材としての成長		
		素地を育む	基礎を培う	実践力を養う
コミュニケーションの力	外国語の運用能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語に親しみ、外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知る。(多様な言語に触れる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初歩的な外国語(英語)を用いて、コミュニケーションを図ることができる。 <b>【英検3級以上を取得する】</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語を用いて、自分の考えを論理的に主張し、他者と議論することができる。</li> <li>外国人を相手に、場に応じた適切に対話をして意思疎通を図ることができる。 <b>【英検2級を取得する】</b></li> </ul>
	コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見や気持ちを相手に分かりやすく伝え、積極的にコミュニケーションを図ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立場や考え方の異なる人々を理解するとともに、積極的にコミュニケーションを図ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立場や考え方の異なる人々を理解するとともに、相手を尊重しながら、場に応じた適切なコミュニケーションを図ることができる。</li> </ul>
異文化理解・アイデンティティ	異文化に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界中には様々な国があり、それぞれの文化に違いがあることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他国の文化や価値観についての関心を高め、我が国の文化との違いを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他国や地域の異なる文化について、共通性と異質性があることを理解するとともに、違いを個性として尊重する態度をもつ。</li> </ul>
	日本人としてのアイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土広島歴史や文化を学び、理解するとともに、これらを受する態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土広島と我が国の歴史や文化、伝統についての理解を深め、将来にわたって継承し発展させようとする志をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の歴史や文化、伝統についての理解をより深め、日本人としての自覚や誇りをもって、国際社会で主体的に生きようとする態度をもつ。</li> </ul>
新しい価値を創造する力	チャレンジ精神	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものごとに進んで取り組み、自分のことは自分で解決しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や地域の課題について、自分なりに考え提案し、解決しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な考え方もつ人々が行動しても、問題が解決に向かうようなシステムの構築に向け、主体的に行動することができる。</li> </ul>
	協調性・柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分とは異なるものの見方や考え方があることを知り、理解しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分とは異なるものの見方や考え方を理解し、尊重する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な価値観、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々とも協力・協働しながら、共に生きていこうとする態度をもつ。</li> </ul>

# 高校生の海外留学の状況

高校生の海外留学者数は、近年減少傾向にあり、特にアメリカへの留学者数は大きく減少。留学の阻害要因として、言葉の壁や経済面、進路面の不安などが挙がっている。

## 全国の状況

〔留学者数(3ヶ月以上)行き先別〕



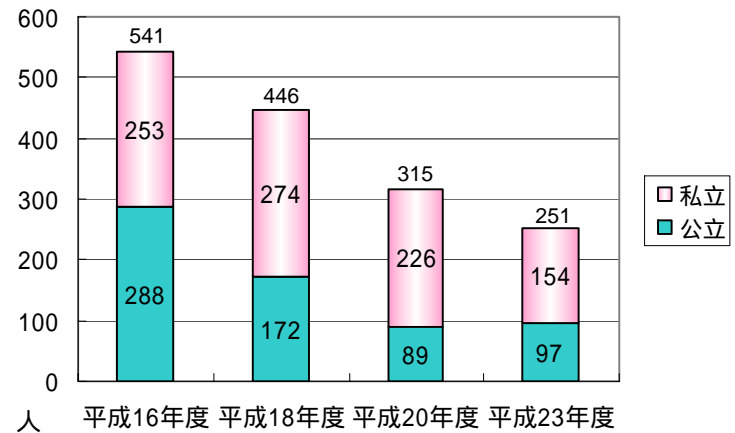
〔留学を希望しない理由〕



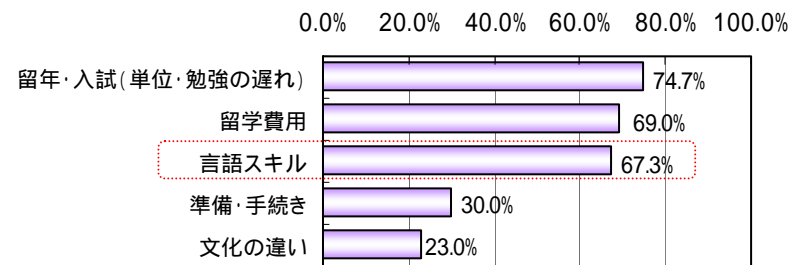
出典)H23高等学校等における国際交流等の状況について(文部科学省)

## 県内の状況

〔留学者数(2週間以上)〕



〔留学を希望しない理由〕



出典)H24高校生の海外留学に関する調査(広島県教育委員会)

## 教員研修の状況

県立教育センターでの専門研修のほか、文部科学省やJICA等を活用した海外派遣研修を実施しており、これまで約200人の教員を海外に派遣している。

### 〔研修実施状況(県立教育センター)〕

(単位：人)

研修講座名	期間	対象校種	対象校種			備考
			小	中	高	
外国語活動「やってみよう！外国語活動の授業づくり」	1日/年	小・中	30			
外国語活動「コミュニケーション能力を育成する授業づくり」	2日/年	小・中	40			
外国語(英語)科「批判的に読む力を育てる授業づくり」	1日/年	中		28		
外国語(英語)科「批判的に読む力を育てる授業づくり」	1日/年	高			24	
外国語(英語)科「文法指導と言語活動の一体化を図る授業づくり」	1日/年	中・高		40		
[参考] ブラッシュアップ研修(H15～19)	10日	中・高(全英語教員)		192	359	5年間で全英語教員が受講 英語漬け研修 (広島市、福山市を除く)

「対象校種」欄の小・中・高には、それぞれ特別支援学校の小学部・中学部・高等部を含む。

### 〔海外派遣研修の状況〕

(単位：人)

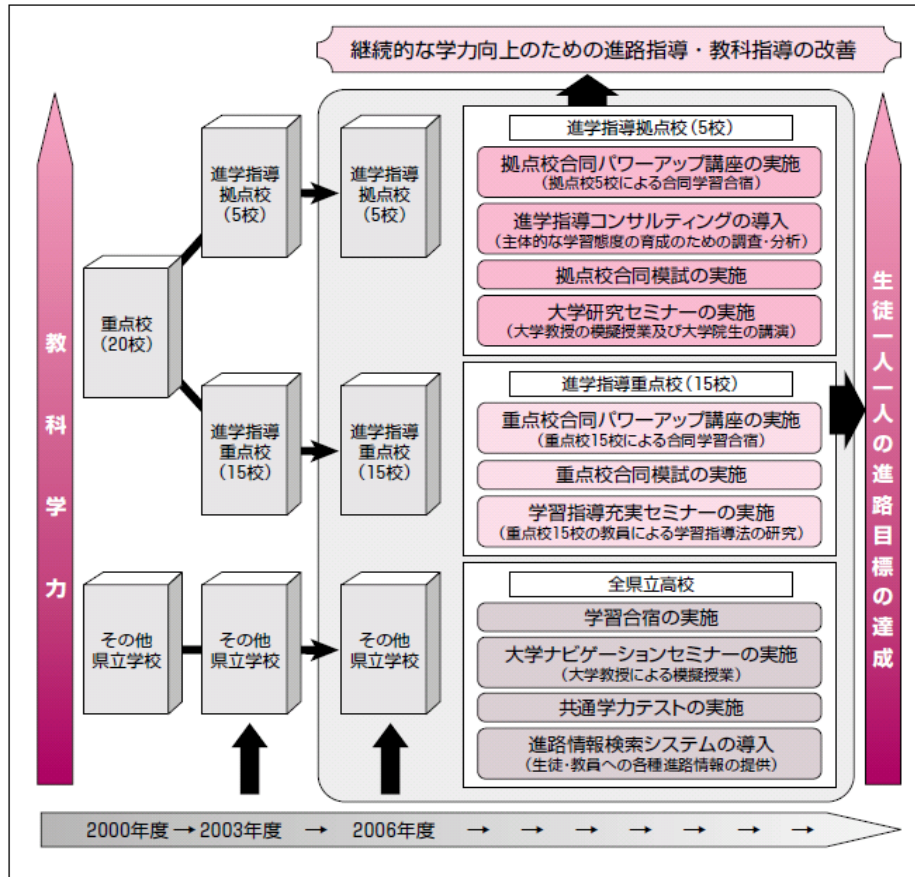
事業名 【事業主体】	派遣期間	派遣先	対象校種	H24実績(派遣中)				過去実績累計				備考
				小	中	高	特支	小	中	高	特支	
在外教育施設派遣 【文部科学省】	2年 (延長1年)	海外の日本人学校等	小・中	10	6			77	42			S53～
青年海外協力隊 < 現職教員派遣制度 > 【JICA】	2年	外国の教育施設 (主に発展途上地域)	小・中・高	2	0	0	1	8	1	7	5	H3～
外国教育施設日本語指導教員派遣事業 (REX) 【文部科学省】	2年	外国の教育委員会	中・高					1	11	12	1	H2～ 中:H19中止 高:H20中止
日本人若手英語教育米国派遣事業 【文部科学省、外務省】	6ヶ月	米国の大学	中		2				4			H23～
広島県英語担当教員語学研修 【広島県教育委員会】	3週間	ハワイ大学 (KCC)	中・高		1	2			9	9		H19～
姉妹校教員海外派遣 【広島県教育委員会】	1ヶ月	海外の姉妹校	高			6				6		H24実施
計				12	9	8	1	86	67	34	6	



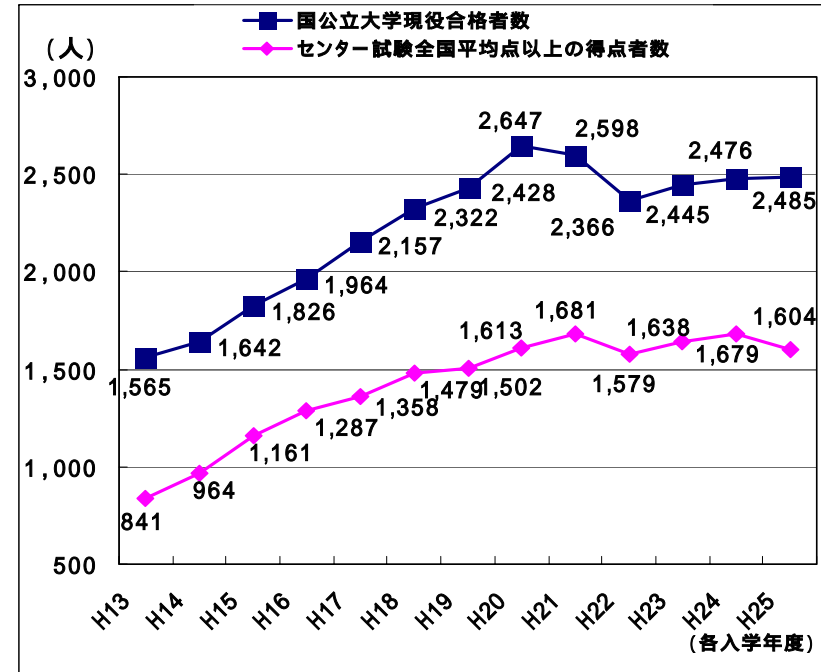
# 県立高校の学力向上対策の状況

県立高校では、H12年度から学力向上の重点対策を進め、対策前に比べ国公立大学現役合格者数は約1.5倍、センター試験の全国平均点以上の得点者数は約2倍に増加。大学等進学率は全国上位にランクイン。

〔高等学校学力向上対策事業の概要〕



〔国公立大学現役合格者数等の推移〕



〔大学・短大等進学率〕

	H4		H18		H24	
	広島県	(全国)	広島県	(全国)	広島県	(全国)
進学率 (全国順位)	40.4% (7位)	32.7%	56.8% (3位)	49.3%	60.0% (5位)	53.5%